

「子どもの症状の見分け方やその対処」

「熱」〜第2回目

『子どもが熱を出した』という相談を受けたとき、その場をおおっているもつとも大きな不安はなんでしょうか。

「脳炎や髄膜炎ではないかどうか」ということです。

小児救急の報道番組などが、この病気を繰り返し扱っているのも、これを不安がる方が多いのは当然です。私たちはこのことを踏まえて、ご両親に次のようなことを聞きます。

「激しい頭痛はなぞですか
足を引きずっていませんか
あごを胸につけることはできますか（髄膜炎では首が硬くなります）」

「繰り返して嘔吐していますが、まだそろっている場合は髄膜炎・脳炎の可能性があり、大至急受診しなければなりません。逆にそろって

なければ、可能性は非常に低いと思われれます。（実際にそろうことは非常に少ないです）」

また、言葉を話せない児の全身状態を確かめるために次のようなことを聞きます。

「子どもは今何をしていますか、飲み物をほしがりますか、食べられますか、どんなものを着ていますか、熱を下げる手当てをしたら元気になるましたか」

たとえば高熱を出し、元気がなく、ぐずったりまとわりついたりして、食べ物にもおもちやにもほとんど興味を示さない、熱を下げる手当てをした後も一時間以上このようになり、なみじめな状態が続いた場合は要注意です。受診を考えたほうがいいでしょう。

熱の原因の中には「熱自体よりも」心配なものがあります。今回はさらにその点に触れることにいたします。